



SSKP

つくしんぼの
会報誌

つくつく通信

No.64

「つくしんぼ」はハンディのある子どもたちの放課後活動のスペースです

編集～「フリースペースつくしんぼ」 東京都町田市小川1511 TEL/FAX 042(796)8468

『あたりまえ』なこと

思い起こしてみると、現在の小学生の親が子どもだった頃は、障がいのある子と接する機会が少なかったように思えます。

今日のような「学校はその子どもにあった教育の場を提供する」という考え方がなく、当時は、障がいのある子の保護者が「自分の子どもは教育を受けられるレベルではないので就学を猶予、あるいは免除してください」と『就学猶予』『就学免除』を願い出なければいけない時代であったからでしょう。

現実には、私が小学生だった頃、私が通っていた学校には障がい学級はなく、障がいのある子に会ったのは、中学校の『草の実学級』という障がい学級が初めてでした。普通級との交流もなく、体育祭の時に見かける彼らたちの姿、私の思い出の中にはそれぐらいしかないのです。

もう少し早くに出会っていれば、我が家に障がいのある子が生まれる前に、あたりまえなこととして、受けとめることができたのかもしれない、なんて思ったりもします。

いろいろな人がこの世の中には存在していて、お互いの弱い部分を補いながら一緒に生きていく。そして、それはできるだけ小さなうちから、一緒に生活を共にしていくことで、同情でもなく、憐れみでもなく、『あたりまえ』なことなんだと実感する。

例えば道で転んで倒れている人がいたら、「大丈夫ですか？」って声をかける。そして手を差し伸べる。理屈でなく行動しますよね。小さな頃からまわりの大人のそういう振る舞いを見てきているから、子どもたちも自然にそうできるのでしょう。

それが大人になってからだと、知識から入っていくので、始めは何か構えてしまうところがあるような気がします。

我が家の長男が小学校の障がい学級に入学した時、同じ1年生の交流級の友だちに「〇〇君は体が弱いんだよね？」って聞かれたことがありました。同じ1年生なのに違う学級にいて、給食の時やプールに入る時や遠足の時に現れる、そんな息子の存在が不思議でならなかったのでしょう。

「体が弱い」という表現は彼が考えた言葉なのか、まわりの大人がわかりやすいようにと彼に伝えた言葉なのか、そのへんはわかりません。でももう少し説明したいな、と



Mr. パナナさん (?)とともに.....

思った私は、息子と一緒に登校していたものですから、彼に「まだ一人では学校に行けないんだ。車が来ても、危ないということがわからないから、よけられないんだ」と話しました。

小学校5年生の時、息子は学芸会で普通級の子どもたちと舞台に立ちました。その時の話を先生から聞いたのですが、練習をされていて、息子がセリフを覚えて言うことが難しく困った時、交流級の友だちから「手に持っているカバンにセリフを書いておいたらどうか。客席からは見えないようにして」と提案があったそうです。

そして当日、息子の横に立った友だちは次に言うセリフを指でさし示してくれたそうです。日々一緒にいたから思いついたアイデアですね。

どういう風にしたら助けになるのかって

いうことを、大人が説明しなくても子どもたちが自ら学んだのでしょう。

障がいのある子と一口に言っても、様々であり、苦手とする部分もその子によって180度違うこともあります。同年齢の子とワイワイ騒ぐのが好きな子もいれば、音に敏感で子どもの高い大きな声から逃げ出す子もいます。

全ての子にとって「一緒にいる」ということがいつでも良い環境とは言えないかもしれません。しかし、障がいのある子(人)が、私たちと一緒に社会の中で生きている、そのことを実感できる環境があつてこそ、理解できるのだと思います。そして理解しあえる環境というのは、障がいのあるなしにかかわらず、誰にでも優しく、助けあい『あたりまえ』にできる場所になり得るのではないのでしょうか。



今回のキッズタイムは、ミユちゃんです。
お母さんにお話していただきました。

小学2年生になったミユは、1才ぐらいまでは普通に成長していたのに、2才頃から出てた言葉が消え、そのうち声じたいも発しなくなってしまう、視線も合わせなくなりました。でも、4才を過ぎたあたりから徐々に言葉が出始め、そして、1年生の時の冬、はじめて私のことを「おかあちゃん!!」と呼んでくれました。

ミユは自分の服に強いこだわりがあるようで、好みがとてもうるさいです。色は赤やピンクが好きなのですが、赤やピンクでも、どれでもいいというわけではないようです。気に入った服しか着ません。毎日着る服も、ほとんど自分で選びます。

オシャレも好きなのですが、いろんなことをやらかしてくれます。自分で髪の毛を切ったり、水性ペンや油性ペンなどをつめ

にマニキュアのように塗ったり、耳に洗濯バサミや髪を留めるピンをはさんでイヤリングにしたり……。その発想には笑ってしまいます。スカートの横を少しハサミで切って、スリットスカートにされたこともありました。

ミユは危険がわからないし、こだわりやパニックもたくさんあつて大変なのですが、手がかかる分、ちょっとした成長が、とても嬉しいです。

これからもゆっくり成長していければいいと思います。



《つくしんぼ日記》

6月22日の日曜日、弦政大学ボランティアサークル「びゅあびゅあ」のみなさんがなんと15人!! つくしんぼの子もたちと遊んで下さいました。

庭の中央に古畳を敷き詰め、その上にトランポリンを広げて大騒ぎ!!

＼くんはきもだめし大会を開催してリーダーシップを發揮。Ｔくんはトランポリンについて泥んこの足跡を見て「不思議な足跡が…あしもとが…あしあと…あしもと……」とつぶやいたとか。(笑)

お兄さん、お姉さんたち、あいがとうございました。

今度は夏休みにヨロシク～…です。



そりゃもうあっちもこっちもおお騒ぎ!!
子どもより大学生の方が多いいのはご愛嬌…



初めまして。夕風の間、逃れようのない暑さに耐えがたい思いがします今日この頃。これをお読みになっている方々はいかがお過ごしでしょうか。4月からこのつくしんぼでお世話になっている的野賢太と申します。

つくしんぼへ来たきっかけは、つくしんぼのプログラムのひとつ「造形」担当の高尾先生よりご紹介です。

ですので、それこそ長い間ボランティアをやってきて、ここの求人募集を見て「自分はここで働くんだ!」というような意識でやってきたというよりも、それほど経験もない若造が紹介を受けて働くことを決めたという感じです。公的な資格もなければ経験もろくにありません。

ただ、紹介を受けて決めたからといって理由もなく決めたという訳ではありません。つくしんぼでお世話になると決まる前に見学へ来た時の話です。

活動を見て、参加してみてもはっきり申しまして「大変な所だなあ、独特な雰囲気場所だなあ」と思いました。一体何をすればいいのか、何をすればいけないのか、何が起こるのだろうと不安を感じていました。

でもそれと同時に子どもの表情を見てみるととても幸せな、そして楽しい気持ちになりました。何が原因でそう思ったのかは全くわかりませんがとにかくそれらを感じました。これが理由です。

たしかに「そんな漠然とした感情が理由なんて馬鹿げている」と思われるかもしれませんが、ここ最近子ども大人に限らず本当に幸せそうな人をあまり見かけなかった私としては反対に新鮮で、とても驚きました。また、楽しそうな雰囲気に思わず誘われてしまったという下心もあったと思います。

最後に、右も左もわからない様な未熟者ですが、温かい目で見守っていただけたらなあ、と思います。



つくつく通信の裏表紙

東京都教育庁からこの5月に出された『これからの東京都の心身障害教育の在り方』について』という中間答申をご存じですか？

この答申に今、障害児の親達が動揺・困惑しています。「これまでの“障害児学級”が廃止され、“特別支援学級”という形態の『特別支援教育』に移行されてしまう」と読み取れてしまう内容だからです。障害児の親であれば「やっと慣れた学級がなくなってしまう」と聞けば、困惑するのも当然です。

詳細がよくわからないので、現時点では何とも言いようがないのですが……。

ただ、ここにきて、強く感じる場合があります。それは、最近の幼い障害児の親達の意識の変化です。

私自身が障害児の親になった頃、周囲には「自分達は障害児家族なのだから、誰か他人が何かしてくれる権利があって当然」という感じの親が思った以上にたくさんいて驚きました。ところが、最近は滅多にお目にかかりません。

時代が悪くなり、福祉は聖域というこれまでの常識が通用しなくなった現実を肌身を持って感じざるを得ない環境の中にいるからなのでしょう。

で、ふと思うことがあるんです。まだまだ福祉が恵まれていた時代に、多くの親達が安穩とばかりしていないで問題意識をもって放課後問題に取り組んでくれていれば、と。つくしんぼのような施設がもっといっぱいあったんじゃないのかなあ、と……。

(4月～6月)

へささえる会 ご入会・ご更新ありがとうございます

神長様、川崎様、吉本様、岡村様、中村様、谷沢様、猪俣様、矢田様、池沢様、福井様、清水様、大西様、荒木様、金森様、玉川様、宇佐美様、竹田様、志賀様、池田様、山本様、野村様、中西様、松山様、大谷様、田口様、依田様、萩村様、斉藤様、井上様、山田様、松見様、中井様、平井様、鈴木様、岡様、佐藤様、宮島様、堀内様、橋本様、佐治様、長谷川様、松谷様、神谷様、小林様、横溝様、森田様、阿部様、みなみ風の会様

へポランティア・ご寄付ありがとうございました

福井様、小林様、高尾様、林様、川本様、三箇山様、飯塚様、阪本様、小川様、中西様、久代様、栗田様、梅田様、川崎様、ぴゅあぴゅあの皆様、(浅川様・松田様、大梶様・斉藤様・田木様・中河西様・廣田様・金子様・福嶋様・野々下様、後藤様、橋本様、大福地様、渡辺様、泉山様)、佐藤様、有田様、柳内様、八杉様、パークス様、サイドバイサイド様

つくしんぼをささえる会 ご入会・ご更新のお願い

フリースペースつくしんぼはハンディをもつ子どもたちの放課後活動の場として活動しています。96年5月に開所し、現在は補助金を受けてはいますが、運営面で苦しいのが現状です。

よろしかったら「ささえる会」の会員になって頂けませんでしょうか。年会費2000円(一口)でお願いしております。

会員の皆様には、この会報誌「つくつく通信」を送付させていただきます。よろしく願いできましたら幸いです。

郵便振替口座番号
00120-7-168283
加入者口座名称
フリースペースつくしんぼ

